

氏名： 杉山 世子

実施国:ケニア、ベトナム

調査研究

活動名称

途上国における一村一品運動の実態調査及びマラウイ産品の日本国内市場への投入の可能性調査

(1) 計画通りに実施されましたか？運営面・経理面での変更点はありましたか？

- ・スケジュールが変更になった（理由、当初予定より受給決定が遅れた点や現地受け入れ先の状況に合わせて）
- ・渡航先をケニア、マラウイからケニアのみに変更した（理由、ケニアにてマラウイ入国に必要なイエローカードを紛失/盗難に遭遇したため日程変更余儀なくされた）

(2) 実施の結果（良かった点、反省点を含めて）

○ベトナムでの国際一村一品セミナーに関して：

良かった点は、平松前県知事をはじめ、多くの関係者にお会いできたこと。各国の JICA 専門家や現地職員と情報交換することで、研究計画が具体的となった。

研究面においては、一村一品国際学会会長の村山皓先生のレクチャーが非常に参考になった。その後もメールにて連絡をとらせていただき、次回のセミナーへも運営面でのお手伝いをさせていただける可能性も出てきた。

反省点としては、アフリカの事例を中心に研究しているため、ベトナムやその他アジア諸国の一村一品運動自体に対する認識が甘く、情報収集に徹してしまったこと。

○アフリカ調査に関して：

良かった点としては、ケニアに訪問したことで、これまでも調査・研究を蓄積していたマラウイへのより客観的な評価ができた。ケニアとマラウイの国の違いで、実施プロジェクトの内容が異なるといった発見があった。つまり、それぞれの国のインフラや発展度合いに応じた一村一品運動が実践されていることを知った。

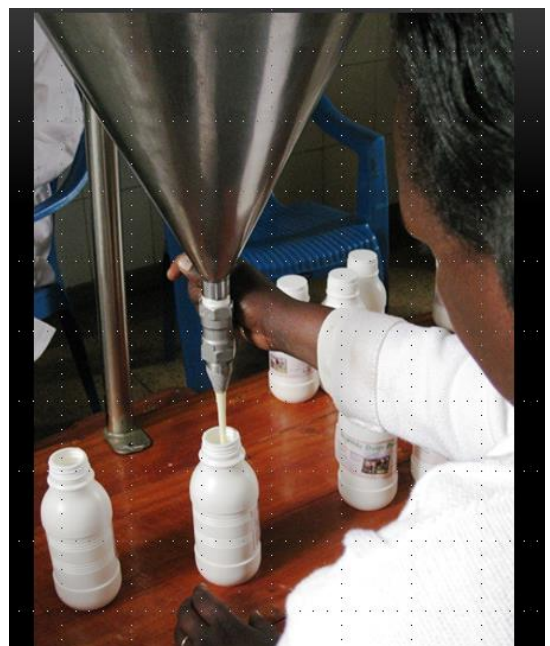
またケニアにおける課題点を挙げ、次なるリサーチクエストを持つことができた。

反省点としては、日程がタイトだったために、実施体制に関する調査に留まってしまった点。次回、フィールドワークを実施するには、最低でも一か月以上の日数を、ひとつの国、ではなく、ひとつの現場で過ごす必要があることを改めて感じた。しかし、今回は、実施体制面での調査を目的にしているため、その一定の成果を得ることはできた。

一村一品運動（OVOP）の産品



ケニアでのフィールドワークの様子(右)



(3) 異国の参加者同士または本人が相互理解を深めたと確信できた場面は？  
または実施事業に対する一般の反響は？

ハノイでは、多くの国籍の方と「一村一品運動」というひとつのテーマのもとに交流できた。  
このような機会をいただけたことを非常に感謝しているとともに、多くの方に研究成果とともに、本事業のことを伝えた。帰国隊員で同様に研究活動に勤しんでいる方でも、このような制度を知らない方が多いようなので、報告とともに、伝えていきたい。

(4) 社会への効果（実施事業がどのように社会に活かせるか、活かしたか）

現在、一村一品運動での学びを活かし、起業に向けて準備中である。事業内容も、まちづくりや地域ブランドの育成を通じた人づくりに関わるものとなる。今回の渡航は、事業を通じた人づくりの大切さを実感するものであり、起業への意思を一層固めるものとなった。